

<報道発表資料>

2018年7月26日

山頂で取得する環境科学データのリアルタイムモニタリング配信を公開

—研究者間の情報共有・活用の促進と一般市民に対する環境や災害対策の啓蒙普及をはかる—

認定NPO法人富士山測候所を活用する会は、2018年7月26日（木）富士山頂で観測している雷・雷雲のデータ、二酸化硫黄（SO₂）、一酸化炭素（CO）、オゾン（O₃）などの大気汚染物質のリアルタイム観測データを公式ホームページから公開を始めました。研究者間の情報共有・活用を促進するほか、一般市民にも環境や災害対策に対する啓蒙につながるものです。

富士山頂は孤立峰であるため大気が地表の影響を受けにくく、自由対流圏にある大気観測や雷雲内部の観測にとって日本では唯一のサイトです。富士山測候所を活用する会ではこれまでも観測データを研究者間で利用を促進してきましたが、一部を除いてはリアルタイムではなく、夏期観測が終了してからの提供にとどまっていた。

鴨川仁・東京学芸大学准教授と加藤俊吾・首都大学東京准教授は、2016年度から火山噴火モニタリング対策として、ホームページ上にSO₂のリアルタイムデータ表示システムを開発し、以来2シーズンにわたり試験運用し、プログラムの更なる改良を行ってきました。この実績を踏まえ、この度、大気電場（雷・雷雲）データ、CO、O₃などについても、それぞれの研究グループのデータ収録PCにインターネット上で常時モニタリングとデータ公開を可能とするプログラムを組み込んで実現したものです。

富士山測候所を活用する会ではこれまでの観測経験を通して、被雷対策、省電力化計測技術、無人観測、大気微量成分のサンプリング・分析、大気電気現象の測定・撮影などの技術を開発し、ノウハウを蓄積してきました。今回はこれらの技術を統合し、山頂で取得した各種データをリアルタイム配信することにより、研究者間の情報共有と活用を促進し、より一層の学術成果を得るほか、一般市民にも環境や災害対策についての知識・啓蒙普及につながることを期待しています。

*本事業は一般財団法人WNI気象文化創造センター第8回気象文化大賞「富士山頂から地球環境問題の最先端を発信する」の助成を受けて実施しています。

雷・雷雲状況 リアルタイムモニタリング

Realtime Monitoring



富士山頂の雷・雷雲が生成する静電気状況をリアルタイムモニタリングしています。データは60秒間隔で取得しています。
◆本事業は一般財団法人WNI気象文化創造センター第8回気象文化大賞「富士山頂から地球環境問題の最先端を発信する」の助成を受けて実施しています。

大気電場

雷雲によって作られる静電気をリアルタイムモニタリングしております。データはあくまで大気電場モニタリングであり、落雷予測情報ではありませんのでご注意ください。データは60秒間隔で更新されます。
上段は、低感度（雷雲が接近すると激しく変動します）、下段は、高感度（宇宙と大地の間や、雲海の微小電気が変動が計測します）システム構築：鴨川仁理事（東京学芸大学准教授）、鈴木智幸博士（東京学芸大学研究員）
装置の設置状況は、朝日新聞夕刊2017年8月31日1面トップ記事に掲載された写真（鬼室黎氏撮影）を御覧ください。

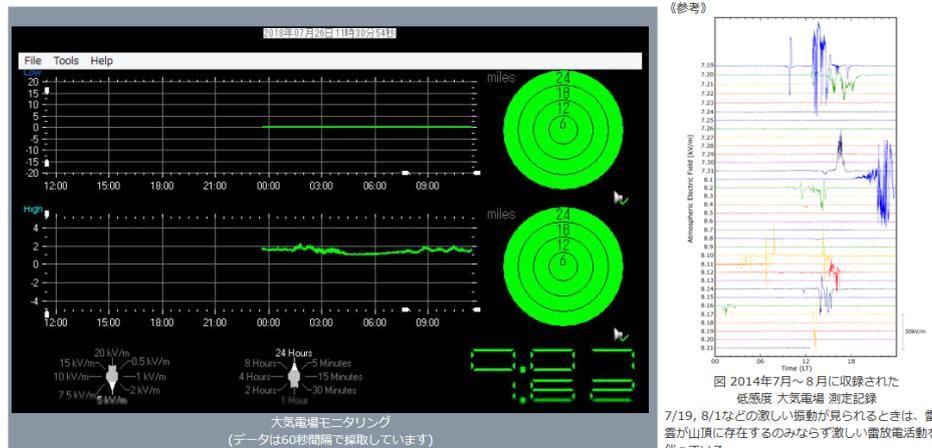


図 公開した観測データの画面の一例（雷・雷雲状況リアルタイムモニタリング）

■ 本件に関するお問い合わせ先

事務局： TEL : 03-3265-8287 FAX : 03-3265-8297
E-mail : npofuji3776@yahoo.co.jp